

つばさ新聞



LINE



インスタ



お雑煮回診



病気や障害で、「お餅など食べられない」、「食べさせるのが怖い」。このような方にも安全に御正月気分を味わってほしいという思いから始まった【お雑煮回診】。今年も当院の食支援チームが頑張りました。「綺麗に飾られたお膳と懐かしい香りに誘われ、食べる前から良い笑顔でした。」「いつもは食が進まないのに、ペロッと食べました！」と嬉しいお声をいただきました。食のことでお困りの方は、当院スタッフに遠慮なくご相談ください。



ソーシャルワーカーの豆知識

～レスパイト入院～

レスパイト入院とは、

在宅で介護・医療を受けている方が、一時的に病院に入院する制度で、在宅介護・医療を受けている方をサポートするご家族の休息を目的としております。また、サポートするご家族の入院・旅行・冠婚葬祭などにより、一時的に自宅での介護が難しい場合にもご利用いただけます。

利用対象者の方

- ・病状は安定しているものの、自宅で医療機器など利用している方
- ・常時の医療管理・ケアが必要なため介護保険によるショートステイ利用困難な方
- ※ 医療管理の一部例：人工呼吸器、気管切開、頻回な吸引、点滴など

医療機関について

- 相談できる医療機関は限りがあります。
- ・基本的に治療や検査はありません。(医療機関や事情により異なる)
- ・入院期間は各医療機関により異なります。
- ・入院費用は通常の入院と同じく、医療保険を利用します。

在宅療養を継続するための支援のひとつです。様々な事情で在宅療養継続が難しい場合は、当院主治医か MSW (ソーシャルワーカー) までご相談下さい。

「訪問看護」をはじめました。

訪問看護サービスのご案内

2025年3月より、当院看護師による訪問看護サービスを開始いたしました。これにより、訪問診療や往診などの医療と看護師によるケアが一体となった自宅でのサポートが可能となります。また、「すぐに来てほしい」「すぐに帰りたい」などの急ぎの新規相談にも対応が可能となります。今後も地域の訪問看護ステーションとの協力関係は引き続き継続しながら、病状に合わせ当院からの訪問看護サービスを提供いたします。



サービス内容

- ・医師の指示のもと、看護師がご自宅に訪問し、必要な医療ケアを提供いたします。
- ・服薬管理、点滴、創傷処置など、専門的な医療をお手伝いします。
- ・日常生活に関するサポートも行います。



訪問看護スタッフ紹介



看護師

岡山市
中 智絵

好きなこと：プロレス、ユニコーン(バンド)
診療同行看護師としてつばさクリニックで11年働いたのち、憧れていた訪問看護の道へ進みました。この度縁あって、再びつばさクリニックへ戻ってまいりました。患者さんの望みを訪問看護の立場で一緒にカタチにします。



看護師

兵庫県
赤木 美代子

好きなこと：羊の鑑賞。見て、触って癒されます。父が末期の悪性腫瘍で入院し、余命がわずかと言われたが、訪問看護が見つからず、自分が看護師として自宅で看取る経験をしました。訪問診療と訪問看護が増っていれば、今以上に患者が望むタイミングで帰れるお手伝いが出てくると思っています。

つばさクリニック

定期訪問 午前9時～午後5時 緊急往診 24時間対応

診療科目 訪問診療・内科
循環器科・呼吸器科・整形外科
〒710-0047

岡山県倉敷市大島534-1
TEL 086-424-0283
HP: www.tsubasa-clinic.net

つばさクリニック岡山

診療科目 訪問診療・内科・小児科

〒700-0026
岡山県岡山市北区幸違町1-7-7
TEL 086-254-0283
www.tsubasa-okayama.net



想いでエピソード

つばさクリニック岡山 看護師 山本 美映

つばさクリニックの看護師として在宅医療に携わる中で、多くの方々と出会い、様々なエピソードを経験してきました。その中でも、私の心に深く残っている患者さんのエピソードを紹介したいと思います。



その患者さんは、80歳代の男性で、胃癌の手術歴がある一人暮らしの方でした。老衰によるフレイルや認知機能低下、肺機能障害などが原因で、入退院を繰り返していました。県外に一人息子さんがいらっしゃいましたが、息子さんはお仕事が忙しく、サポートが難しい状況でした。それでも、ご本人は「最期まで自宅で過ごしたい」という強い思いを持っており、その気持ちを尊重した息子さんから、当院へ訪問診療の依頼がありました。

初めてご自宅にお伺いした際、ベッドの横には手付かずのまま山積みになされたお弁当があり、お話を伺うと、水分をほとんど取れていない状態でした。1日のほとんどをベッド上で過ごし、トイレの時だけ何とか起き上がるという生活を送っていらっしゃいました。帰り際、挨拶をした際に「また来てくださいね。待っています。」と手を握りながら微笑んでくださった姿が、とても印象的でした。

その後、毎日誰かが訪問する生活が始まりました。介入当初は、薬の服用や治療に対する拒否がありましたが、次第に「薬がほしい」「点滴をしてほしい」「お風呂に入りたい」といった前向きな姿勢が見られるようになりました。しかし、喜びも束の間、突然お別れの時が訪れました。結局、「お風呂に入りたい」という願いは叶いませんでしたが、ご本人は住み慣れた自宅で心穏やかに安らぎの時を過ごすことができ、孤立した生活の中で人との関わりが生まれ、寂しさが和らいだひとときがあったのではないかと思います。そして、「最期は自宅で」というご本人の願いは叶いました。息子さんも、わずかな時間ではありましたが、そのことに満足し、大切なご家族の最期を受け入れられたようでした。

つばさクリニックの患者さんの中には、長いお付き合いになる方もいれば、そうでない方もいらっしゃいます。今回の患者さんのように、「次回の診療日にお会いしましょう」と言った後、二度と会えなくなることもあります。この経験から、今後の診療に携わる中で、僅かな時間であったとしても、その瞬間を大切にしていきたいとより強く思うようになりました。そして、患者さん一人ひとりの家族背景や事情、その方の歩んできた人生を考慮し、その人らしい生き方をサポートできるよう支援したいと思えます。



Dr. 岡田の南極物語リターンズ



第21回：ヘリコプターが飛んできた

1月17日の午後3時半、H128地点に到着した。標高が下がってきたこともあり、気温は-10℃まで上昇。給油作業中に汗が噴き出た。午後8時、昭和基地と定時交信にてアイスコアのピックアップが明日行われると発表された。

18日は午前5時半に起床。天気は快晴微風。6時半より全員でドームふじ基地にて掘削したアイスコアを機から降ろす作業を実施した。午前9時、砕氷船しらせから飛び立った第1便のヘリコプターが我々の頭上に現れた。ゆっくりと上空を巡回した後、徐々に高度を下げ、強烈なダウンウォッシュとともにランディング。搭乗員が一斉に降りてきた。ドーム隊以外の人間に合うのは2か月振りであったが、簡単な挨拶だけで、すぐさま段ボールの積み込みを開始した。5分ほどで積み込みは完了。その後、第2、3便が午前10時半、11時半に到着。その都度、手際よくアイスコアを積み込んだ。最後の第4便が午後1時に到着し、残り全ての荷物の積み込み作業が終わった。これでドーム旅行隊の一番重要なミッションであるアイスコアオペレーションが完了した。夜には全員で「すき焼き」を食べながら、盛大に祝杯を挙げた。



在宅生活をサポートする医療・介護サービスのご紹介

訪問リハビリテーション



サービスの紹介

はあ〜と居宅介護相談所 管理者 津々 美紀

ケアマネジャー（介護支援専門員）は、「介護が必要な人と介護サービスをつなげる相談窓口」として、介護が必要な方に、多様な介護サービスの中からその方の状態に合うサービスを組み合わせ選定し、適切に利用できるように調整する職種です。また、「介護サービスと医療機関との連携の窓口」も担っています。

事業所の特色

- ・24時間365日対応しています。（何か困ったことがあれば気軽に電話をかけてください。）
- ・ご本人やご家族と話をしてお本人に合うサービスの提案を心がけています。
- ・ご依頼に対しては、基本的にはご自宅へ伺い、相談をお聞きしています。事業所にお越しになられる場合は、赤い郵便受けの下に青い郵便BOXと宅配BOXを設置していますので目印にしてください。



お問合せ先

〒710-0016 倉敷市中庄2355-4 コーポ中村B号

はあ〜と居宅介護相談所 TEL 086-527-6147